

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：警察費 項：警察活動費 目：交通指導取締費

事業名 災害対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

警察本部 警備部 警備第一課 電話番号：058-271-2424(内5612)

警備部 警備第二課 電話番号：058-271-2424(内5711)

E-mail：c18873@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,116 千円 (前年度予算額： 6,420 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,420	0	0	0	0	0	0	0	6,420
要求額	6,116	0	0	0	0	0	0	0	6,116
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

南海トラフ地震等の大規模地震の発生が危惧されている中、東日本大震災の教訓を受け、県警として災害発生時において、迅速・的確な救助活動を実施するために必要な人材の育成と装備資機材の強化を行う。

(2) 事業内容

- ・災害現場における部隊の対処能力向上のための訓練
- ・災害救助活動に必要な装備資機材等の整備
- ・県民への防災、災害情報の提供 など

(3) 県負担・補助率の考え方

県内での災害救助活動に関する事業であり、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	4,657	災害活動用等消耗品、派遣部隊・警察職員用非常食の備蓄など
役務費	1,158	警察ファックス送受信経費、ガス検知器点検調整費など
使用料及び賃借料	7	NHK受信料
その他	294	囑託警備犬報償費
合計	6,116	

決定額の考え方

--

4 参 考 事 項

各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱ－２－（２） 安らかに暮らせる地域

⑥災害と危機事案に強い岐阜県づくり

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

突発的な大規模災害の発生時において、迅速・的確な救助活動が行えるよう、災害現場での救助活動に有効な装備資機材の整備を計画的に実施し、体制の維持強化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

災害発生時の救助・救出活動を迅速・的確に行うために必要な資機材の整備や維持に要する事業であり、目標を設定することは困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	災害警備訓練 突発的な大規模災害発生時に、迅速・的確な救助活動が行えるよう、中部管区広域緊急援助隊合同訓練をはじめとした各種の救出救助訓練を計画的に実施した。 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和5年度	部隊派遣 令和5年度は、6月に発生した東濃地方を中心とした豪雨災害のほか、令和6年能登半島地震に対応するため部隊を派遣し、災害警備活動に従事した。 部隊派遣回数 43回 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和6年度	部隊派遣 令和6年度は、引き続き令和6年能登半島地震に対応するため部隊を派遣するとともに、令和6年奥能登地方における大雨にも部隊を派遣し、災害警備活動に従事した。 部隊派遣回数 16回 指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	災害救助活動と資機材の活用は被災地の人命に直結するものであり、必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	部隊の派遣先において効果的な活動が行われており、成果は認められる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	業務の効率化を検討するとともに、経費の節減に努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 災害現場で有効な装備資機材の整備と維持を行っていく必要がある。
--

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 災害現場における迅速・的確な部隊活動による人命の救助は、最優先されるべきものであり、活動に必要となる装備資機材の整備、維持管理、人材育成を継続して推進する。 また、ケーブルテレビを活用した災害現場映像を入手し、災害救助活動に活用したり、サイバー攻撃の未然防止等に活用するためのインターネット接続環境の維持管理を継続していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	